

令和6年度 前期 学校自己評価のお知らせ

保護者の皆様へ

これは、前期に行った「学校自己評価」の結果です。学校自己評価とは、教職員自身が、学校教育目標の達成状況や教育活動の実施状況を評価するものです。その際、評価の客観性を増すために、「児童アンケート」や「保護者アンケート」の結果も参考にします。「教職員の自己評価」と「児童アンケート」そして「保護者アンケート」の結果と考察を掲載しています。これらの評価の結果をふまえて、学校改善に向けた今後の教育活動を進めていきます。

お時間があるときによくお読みいただき、本校の教育活動に対して御理解いただきますとともに、今後も御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

系島市立前原小学校
校長 石硯 昭雄



系島市立前原小学校

【評価方法】

4段階 4:よくできている 3:だいたいできている 2:できていないときの方が多い 1:できていない

【本校の教育目標】 まごころで学び、えがおでふれあい、ねばりづよくがんばるこどもの育成

【本年度の重点目標】 目標をもって挑戦する自他を認め合い、支え合う子どもの育成

本校の教育目標、めざす子ども像に沿って項目を設定し評価しました。

「まごころで学ぶ」…学習面について、自ら学びよく考えて表現し他者と対話する姿

「えがおでふれあう」…思いやりをもち互いに認め合い助け合う姿

「ねばりづよくがんばる」…心と体を鍛え、根気強くやりぬく姿

	質問項目		児童	教員
まごころで学ぶ子ども	①	「めあて」を自分でつくったり、見通しをもって考えたりすることができましたか。	3.22	2.78
	②	先生の力をかりずに、自分たちだけで15分以上話し合うことができましたか。	2.99	1.97
	③	自分の考えを書いて、学習をふり返ることができましたか。	3.36	2.42
	④	ミライシードで、苦手な問題に取り組んだり、新しい問題に挑戦したりできましたか。	3.11	2.50
	⑤	タブレットを使って意見を出し合ったり、タブレットで自分の考えをまとめたりすることができましたか。	2.93	2.00
えがおでふれあう子ども	⑥	友だちのよさを進んで見つけようとしていましたか。	3.29	3.08
	⑦	命の大切さを考えたり、思いやりのある行動をしたりすることができましたか。	3.58	2.92
	⑧	学校のきまりを守ることができましたか。(名ふだ・遊び場・時間など)	3.38	2.72
	⑨	自分から進んであいさつをすることができましたか。	3.38	2.94
	⑩	学校や学年・学級をよくするための話し合い活動で進んで考えを出せましたか。	3.05	2.47
ねばりづよくがんばる子ども	⑪	時間いっぱい、すみずみまでそうじができましたか。	3.56	2.92
	⑫	給食の後片付けをきちんとすることができましたか。	3.66	3.17
	⑬	めあてをもって体を動かすことができましたか。(朝のスッキリ体そう、短なわけんてい など)	3.35	2.83
	⑭	「ゆめかなえノート」で、自分の成長やがんばりをふり返ることができましたか。	2.98	2.56

子どもの姿の評価 考察

【全体考察】

- どの項目についても、教員の評価の方が児童の評価より低くなっています。項目によってはその差が一段階分1ポイントほど違うものもあります。これは、児童は自身でそれぞれの活動にがんばって取り組んでいる、よくできたという意識をもっている、一方、教員は児童ががんばっていることは認めているけれども、自身の指導・支援の関わり方の反省も含め、児童への期待が大きく、「もっとできたのでは」という思いがあるため、児童の評価より低くなっているのではないかと考えます。
- 教員は子供たちに指導する際、目標とする状態、姿を具体的に考えるよう促し、教員と児童が目標を共有することが大切であると考えます。

【まごころで学ぶ子ども】

- 項目①「めあてを自分でつくったり、見通しをもって考えたりすることができた」、③「自分の考えを書いて学習をふり返ることができた」は、前年度から力を入れて指導していることです。毎時間、児童自身が自分の言葉で何をめあてに学習に向かうのかを考え、授業の終わりには何を学んだか振り返り、学習内容についての自分の考えを書き表す時間を設定するようにしています。この学習の流れをつくることで、児童は課題意識をもってより高い意欲で学習に臨み、考える力を高め、そして、学んだ満足感や達成感をもつことができると考えています。これらの項目が3以上の評価であることは、児童に学び方として定着しつつあると思われるます。
- 項目②「先生の力を借りずに、自分たちだけで15分以上話し合うことができたか」については、昨年度から本校が授業づくりで最も力を入れている点です。友達と意見を伝え合うことで考えを広げたり深めたりする授業を行い、児童の表現力と思考力を伸ばす授業づくりに努めています。児童評価と教員評価の差が大きいことについては、教員は、まだまだ研究が必要であると考えていることが表れています。
- 項目⑤タブレットを使った授業については、児童評価も教員評価も低く、課題です。授業中の交流に有効な活用方法について引き続き研究していきたいと考えています。

【えがおでふれあう子ども】

- 項目⑥「友だちのよさを進んで見つけようとした」は、児童も教員も3以上の評価をしています。学級の帰りの会で一日を振り返り、友達の行為のよかったところを伝え合う活動を取り入れています。認められる心地よさを感じ、また友達のよさを認める意識が高まっているのではないかと考えます。この項目は教員の評価が最も児童の評価に近い項目で取組の成果を感じます。
- 項目⑦「命の大切さを考えたり、思いやりのある行動をしたりすることができる」は、児童は高い評価となっています。学級や学年での活動だけでなく、遠足や、掃除などで異学年と関わる活動を行ったことで、思いやりの心で互いを認めあうことができているのだと思われるます。
- 項目⑧「学校の決まりをまもること」、⑨「自分から進んであいさつをすること」については、高い値であることから、きまりや礼儀に対する意識はあり望ましい姿であろうと思われるます。教員は児童より低い値ですが、望ましい姿について引き続き機会を逃さず指導していく必要があると考えます。

【ねばりつよくがんばる子ども】

- 項目⑪「時間いっぱいすみずみまで掃除」、⑫「給食の片付け」、⑬「めあてをもって体を動かすこと」は児童の評価が高く、⑫「給食の片付け」については、教員の評価も3をこえています。掃除も後片付けも、自分の役割や責任を自覚し自分やみんなのために働く意識をもつことができている。また、給食や運動は、健康について自分で管理できる力をつけるための大切な活動です。給食では苦手な食べ物でも食べる量を決めて挑戦するようにしています。
- 項目⑭「『ゆめかなえノート』で、自分の成長やがんばりをふり返ることができたか」については、3を下回っています。児童は様々な場面の自分のがんばりを「ゆめかなえノート」に自己評価しています。そのがんばりに賞賛と励ましの言葉をかけることで、またがんばろうという気持ちをもつことを期待しています。教員は結果だけでなく、取組の過程の姿も認め励ますよう取組方を見直し、さらに、家庭の協力を得てより有効なものになるようにしていく必要があると考えます。

保護者評価 考察

【参観授業について】

- どの評価項目も高い評価でした。友達と意見を交流しながら自分の考えを確かなものにする授業を目指しています。そのために、座席の配置を工夫したり、全員が交流に参加できるように書く活動を重視したりするなど、交流の仕方を工夫しています。今後も、一人ひとりの児童の思考力・表現力を伸ばす授業を行っていきます。
自由記述でも、「隣の子と意見を交換し合う機会があり、みんなの前で発表する機会がたくさんあって自主的に参加する気持ちが高められる」という御意見をいただきました。
- 一方、「授業の進め方が学年で同じように計画できているか気になる」というものもありました。真摯に受け止め改善に努めます。

【宿題について】

- 宿題は内容も量もおおよそ「ちょうどいい」との回答でした。6年生は、一週間分の宿題を教師が提示し、児童はそれを自分でいつどれだけを進めていくか計画して取り組んでいます。また、高学年は「自学」として、自分がかんがりたいところを自分で決めて取り組むものもあります。家庭学習も個に応じて主体的に行えるようになると思います。

【友達との関わり、生活について】

- 項目⑥「友達のよいところによく気付いている」は、教員とほぼ同じ値です。保護者と教員が同じように感じていると言えます。
- 項目⑦「家庭でも身の回りを片付けたり掃除をしたりする」は、低い値でした。児童は、学校では掃除にかんがっていると自己評価しているので、ぜひ家庭でも家族の一員としてできるようになってほしいと思います。PTAと連携をしたり、学級活動や生活科、家庭科などと関連したりして、家庭での実践力も高めていきたいと思います。

【自己実現力の育成について】

- 項目⑧「いろいろな場面で目標を決めることができる」については、「ゆめかなえノート」の取組を中心に、「なりたい自分」になるには、何をしたらよいかを考えること、具体的な目標を立てることがかんがえる力になることを、ていねいに知らせる必要があります。各週にかんがっていること、かんがったことが、「なりたい自分になること」につながっていることを意識できるよう、再度取り組み方を考えていきたいと思います。引き続き地域での活動や御家庭での生活のあらゆる場面で、諦めずにかんがえる姿に励ましの言葉をかけていただきたいと思います。

【学校からの情報発信について】

- これからも、児童の学校での様子や、学校の取組についてわかるよう発信していきたいと思います。自由記述では、昨年度も出ていましたが、紙媒体よりも電子でのお知らせがよいとの御意見がありました。文書によっては、メールでの配信に置き換えているところです。内容によっては取り扱いの検討が必要なものもありますので、少しずつ進めていきたいと思います。